



陽気は幸せの種

陽気だより

No93

2014.12.15

●ホームページからも「陽気だより」
最新号・バックナンバーをご覧いただけます

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和33年7月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

家庭における宗教教育

岡島 藤人

(養徳社社長 昭和33年当時)

家庭の雰囲気

いずれの家庭でも、家庭のなかに宗教的雰囲気を持たせようとするのは、きわめて大切なことだと思ふ。家庭のなかに宗教的雰囲気のある家庭は、どことなく温かく和やかな感じがするものであり、これのない家庭は、どことなく、とげとげしい、冷たい感じがするものである。

われわれの知った家庭でも、両親が熱心に信心するとか、祖父母が熱心な信者であるとか、いふ家庭へ行くと、言わず語らずのうちに、和やかな気分がして温かい感じを受ける。しかし、一口に信心といつても、多くの場合、身上をいただくとか、事情に遭遇するとか、そういう一つの節を契機として入信することが多いのは今更ここに繰り返すまで

力が次々起ってくる問題の一つであると思ふ。これには、まず、幼いときから宗教的雰囲気に浸らせることが大事ではないかと思ふ。幼いときに見たこと、聞いたことは、人間の生涯を支配するものである。こうして自然に感化された信仰は、成長につれて、その子どもの信仰にたいする考え方や、人生にたいする考え方を形成してゆくものと思われぬ。子どもには大人のような功利的な考えは少しもないから、むしろ大人が身上、事情によつて入信するよりもかえつて素直な信仰が植えつけられるのではないかとさえ思ふ。しかも、こうして培われた信仰的情操は、その子どもの将来にとつても、その家庭の将来にとつても、見逃すことのできない大きな力となることは必定である。

家庭内の宗教教育

次に、われわれ個人の家庭

日曜学校と子供会

こうした意味から、キリスト教には早くから日曜学校というものが設けられておつて、教会へ集まつて唱歌を歌つたり、童話を聞いたり、またたく肩のこらない幾時間を過ごさせることによつて、自然な宗教情操を養うとしていたが、これなどは、キリスト教伝道の最も大きな特色の一つである。私はかねてから思つている。

内での宗教教育について述べると、日本の家庭には、昔からこの家庭にも仏壇というものがあるが、平素は無用の長物のように思われているが、何か事あるときは、仏壇を開いてお灯りを上げ、お線香をたき、参拝をする習慣があるが、これも私は家庭の宗教教育の一つだと思つてゐる。こんにち、仏教はもはや時代から置き去りにされたとか、生きた人間を支配する力を失つたとかの批判もあるようだが、どこの家庭でも仏壇が存置されているというこの一事だけ

月刊『陽気』定期購読 受付中

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。

毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。(例：1月号は12月20日ごろ)

まずはお問い合わせください。

定期購読料金 1年分…3,420円 (送料込)



購読に関する問合せ先 ☎ 0120-920-398 養徳社 業務部窓口

でも、仏教の隠然たる力を否むことはできぬと思っている。こうした意味で、私たちのお道の家庭でも、神棚をお座敷にしつらえることは何よりも大切なことではないかと思う。家の中に立派な床をこしらえたり、違い棚をこしらえたりするよりも、お座敷に心のこもった神棚を作ることの方がどれほど大切かは改めていうまでもない。

私の家は、人の古い家を買収したのであるが、お座敷には立派な床や違い棚があったけれども、私はこれを取り払って神棚をしつらえた。もちろん、神棚といっても、われわれおぢばに住むものはご本部のお膝元にいるので、神棚と申しましても、先祖の御霊様であります。朝は必ずお供えをし、今日一日のお祈りを申し上げ、夜はお供え物を下げて一日のお礼を申し上げることが家のものの習慣になっています。小さい孫たちにも、人様からいただいたりしたときは、必ず御霊様にお供えをしてからいただく。また、新しいものを買ったときでも、誰よりも先に祖先の霊にそれを捧げて、しか

る後にそれを頂戴するという習慣である。時折、人様からお見舞い品として新しい果物やお菓子をいただいたりすることがあつて、私は何気なくさあ、これをみんなに上げよう、といって孫たちを枕辺に集めることがあるが、そんなときは、孫たちの方から「お祖父ちゃん、これは神様にお供えしたの？」と逆に教えられることがある。

信仰の本来から申せば、われわれがこの世に生まれたことはもちろん、毎日の生活のことごとくを神様のご守護と信ずることはいうまでもないが、それを実際の生活のうえで表してゆくことが信仰であるわけで、いかなることも神様のお蔭、先祖のお蔭というような信念を養成することが宗教教育の最初であり、最後であると思うのである。

幼時の記憶

以上申し上げてきたように、宗教教育は、あえて身上、事情をまつまでもない。きわめて平和にして無事な家庭においても、こうした神様の加護にたいする感謝の心を養うことが肝要である。

私が母にいざなわれて初めて天理教の教会へお参りしたのは、私のごく幼いときであつたが、そのときの記憶は未だに忘れ難く印象づけられている。母親には宗教教育を施そうという意識はなく、ただ何となく私を連れていってくれたものと思うが、その何でもないことが私の生涯を支配するほどの力をもつて、そのときの有様が私の頭に刻み込まれ、今なおその教会の姿が幻の如く浮かんできて懐かしく追憶される。宗教教育というものは、決して固苦しいものではない。日常の平凡な生活のうちに、ちよつとした心遣いと、ちよつとした注意を払うことで、誰しも実行できるものである。更に、そういうちよつとしたことが子どもの将来を左右し、家庭の雰囲気とを深く信じている。家庭の人々に、特にお考えを願いたいと思う次第である。

養徳社の一押し書籍

おびや許しをいただく方に。
にいかがに最適。



マンガ おびや許し

金巻とよじ 作画
山岡美秀 脚本

¥216円 (税込)

目の前の悩みや不足不満が消えれば

幸せを呼ぶ言葉

心に喜びがわき、
幸せの輪が広がってくる。
この世に生きる歓喜と素晴らしさを呼びさします。
榮嶋憲和 著

¥756円 (税込)

思い出のスケッチ

一伝道ゆかりの地めぐりー
青山文治 著
絵と文で甦る、伝道ゆかりの地。
教祖のお姿と先人の白熱的な信仰。

¥1,512円 (税込)

こころのさんぽ道

【改訂増補】
信仰するということは、教えを頭で理解すればいいということではありません。
日々の生活を教えにのっとりて律することです。
それを具体的な生活の場面を通して提示したのが本書です。
篠田欣吾 著

¥1,296円 (税込)

生き方メッセージ

【信仰低迷の一因は思考力の低下】
社会事象や事件、寓話を通して、
たしかに信仰へと突き進む、見方・考え方。
松宮 守 著

¥864円 (税込)

※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。送料200円 図書出版養徳社 業務部窓口 ☎0120-920-398

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
<書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号 00990-3-17694番 加入者名 (株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部